

読者の先生が選ぶ

未来に残したい 学校の一場面

どのように時代が変わっても、大切にし、伝え、残していきたい小学校の場面を
読者の先生方を選んでいただきました。

*氏名五十音順に掲載しています

地域の方と昔の遊びを体験



本校では、地域住民による「学校支援事業」を2011年度から始めました。学校教育を地域の人たちと共に行う第一歩と考えています。今の子どもは、外遊びをすることがとても少なくなりました。週末に学校の運動場を開放して、子どもたちに昔の遊びの良さを体験させようということで、「缶けり」を、子ども、教師、地域の方たちで行っているところです。

あぐい えいび
愛知県阿久比町立英比小学校
校長 石井勝巳 先生



授業研究で指導力を高める



指導力を高める上で欠かせない授業研究。2011年度、本校では20回以上行います。授業を見合い、学び合う日本の授業研究は世界からも評価されています。今後は、学び合い高め合う学習が大切です。そのためには、個を育て、かかわり合わせ、それを土台に集団を高める授業が不可欠です。そうした授業を創造できる授業研究を日常化し、未来に残したいと思います。

千葉県市原市立京葉小学校
校長 鎌田正男 先生



自分自身を守る力を育む



小学校でも情報モラルを身に付ける学習指導の充実が、新学習指導要領に示されました。ネット社会の急速な発展は、子どもと無関係ではありません。ネット社会へ、主体的に、そして安全にかかわることが出来る子どもを育てることが求められています。子どもがインターネットの世界に向かう表情を目の当たりにすると、改めて情報モラル指導の重要性を強く感じます。

だいじし
岩手県盛岡市立大慈寺小学校
副校長 金沢卓司 先生



夢膨らむ春のひととき



新年度が始まってすぐの給食を校庭で食べるのが、本校の恒例です。全児童が縦割り班になり、上級生が下級生の給食の世話をし、シートを敷いて桜の木の下で食べるので「お花見給食」と呼んでいます。春の訪れを感じながら異学年が協力し合うこの行事は、子どもの心の豊かさを培うと共に、新年度の始まりに夢と希望を膨らませる行事となっています。

かみかわちにし
栃木県宇都宮市立上河内西小学校
校長 刀川啓一 先生



伝統文化を受け継ぐ



本校では3年生の「総合的な学習の時間」で、地域について知ることをねらいとする学習の一環として、老人会の方から盆踊りを教えてもらいます。ここで踊りをマスターした子どもたちは、地域の盆踊り大会に積極的に参加し、輪の中で楽しそうに踊っています。こうした「地域の方々とののかかわり」による伝統文化の継承こそ、未来に残したい小学校の良さだと思います。

かたは
愛知県東浦町立片葩小学校
校長 鈴木俊二 先生



学校を磨き、心を磨く

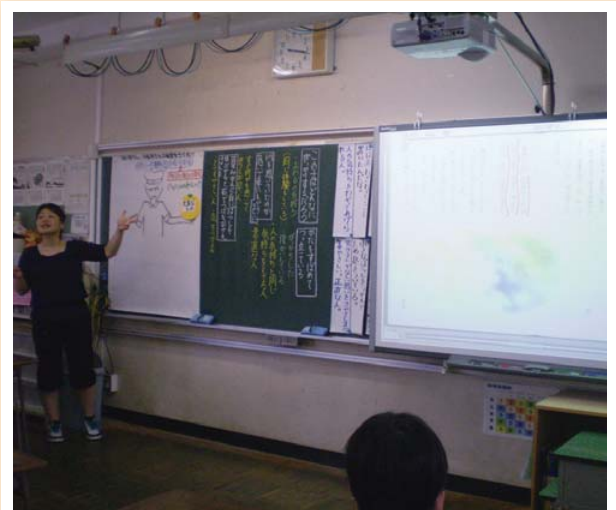


自分の担当場所を、心を込めて掃除する。自分たちの手で自分たちの学校を美しくすることで、自分の心も磨かれていくものです。学校が、教室が、子どもの豊かな人間性を育む場となるよう、授業はもちろん、何気ない日々の活動も大切に積み重ねるよう心掛けています。知徳体のバランスの取れた力を重視する日本の教育は、世界に誇れる素晴らしい教育だと思います。

すみの
愛媛県新居浜市立角野小学校
山本千明 先生



新旧の黒板を授業の核に



明治時代以来、日本の学校になくてはならないものの一つは黒板です。「板書がきちんと出来たら一人前の教師」と先輩に言われましたが、これがなかなか難しい。最近は電子黒板が導入されました。画面操作や書き込みは簡単で、画面の保存や再生も出来ます。しかし、一斉指導である限り、黒板はなくなりません。近い未来、黒板と電子黒板の併用が新しい教室の風景になるでしょう。

新潟県妙高市立新井小学校
校長 西山義則 先生

